

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：82619

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16654

研究課題名（和文）中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容

研究課題名（英文）The Formation of "Illustrated Origins of Temples and Shrines" and "Illustrated Biographies of Esteemed Monks" in Medieval Japan and the Reception of these Genres in the Early Modern Era

研究代表者

瀬谷 愛 (SEYA, Ai)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・主任研究員

研究者番号：50555133

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、鎌倉時代に盛んに制作された仏教説話画である社寺縁起絵と高僧伝絵を対象とし、これらにどのような人々が制作者、斡旋者として関わったかを明らかにすることを目的とした。社寺縁起絵と高僧伝絵の結節点となる重要作品として、国宝「一遍聖絵」について重点的に調査研究を進めたところ、中世律宗が仏教諸宗派と中世絵画の制作現場をつなぐ重要な役割を果たしていた可能性を引き出すことができた。この知見は他の同時代作品研究に応用できることもわかり、今後もさまざまな新解釈への発展が期待できる。また、社寺縁起絵・高僧伝絵制作が再興した近世前期にも共通する社会構造を見出すことができた。

研究成果の概要（英文）：This research focused on two genres of Buddhist narrative painting that flourished in the Kamakura period: "illustrated origins of temples and shrines" and "illustrated biographies of esteemed monks." More specifically, its aim was to reveal who created them and who acted as the intermediaries in the production process.

One important work that acts as a bridge between these two genres is Illustrated Biography of Priest Ippen. By focusing my research on this work, I discovered that the Risshu sect in Medieval Japan may have played an important role in linking the various sects of Buddhism and the workshops where paintings were created. This newfound knowledge may also be applied to other research on contemporaneous painting, and I am confident that it will lead to a variety of new interpretations in this field of study. Lastly, I also discovered that early in the Early Modern period, which saw a revival in the interest in these two genres, there was a similar societal structure.

研究分野：日本絵画史

キーワード：社寺縁起絵 高僧伝絵 一遍聖絵 中世律宗 一遍 忍性 霊雲寺 浄厳

### 1. 研究開始当初の背景

社寺縁起絵は、神社仏閣の由来や本尊の靈験を描き出した説話画で、祖師の行状を描いた高僧伝絵とともに、鎌倉時代に盛んに制作された。従来の研究は、これらの本尊や宗派によって系統分類し、表現の継承と創造、制作背景、受容の場などに関する研究がなされてきた。

研究代表者は、鎌倉時代の社寺縁起絵を主な研究対象とし、時代を超えて制作行為が継承された作例について考察を重ねてきた。これらの作例は、鎌倉時代、室町時代、江戸時代に、それぞれの当代一流の絵師が登用され、継承と革新を調和させながら制作された。また、こうした縁起絵制作が、江戸時代に新たな幕府御用絵師を生み出すきっかけとなるなど、画派のリバイバルへもつながったとみられる。中近世の社寺縁起絵と高僧伝絵の比較研究は、作家個人の古典学習にとどまらない、公武権力や社寺などを巻き込む新時代の動向として総合的に研究すべき課題であると着想し、研究を計画するに至った。

### 2. 研究の目的

本研究は、社寺縁起絵、僧伝絵の制作が最も盛んに行われた鎌倉時代の作例を中心に、その制作にどのような人々が注文主、斡旋者、画家として関わったかを明らかにすることを目的とした。また、個別の作品研究を超えて系統立て、多角的な視座により中近世の社寺縁起絵、高僧伝絵を読み解く。鎌倉時代から江戸時代への継承も視野に入れ、模写活動など作家の古典学習にとどまらず、注文主の古典復興、鎌倉回帰的要請を新たな視座として、社寺縁起絵、高僧伝絵研究を組み直し、発展させる。

### 3. 研究の方法

東京国立博物館所蔵・寄託の社寺縁起絵、高僧伝絵を中心に、伝来する模本類、国内外に所蔵される関連作品、関連資料の情報収集、作品調査、歴史的背景や美術史的視点からの比較、考察を行った。とくに、国宝「一遍聖絵」(挿図)を、社寺縁起絵と高僧伝絵の結節点となる重要作品と捉え、重点的に調査研究を進めた。



また、社寺縁起絵、高僧伝絵に描かれる聖地の現地踏査を行い、伽藍、実景と描かれた風景の比較、基準となる方位や信仰を分析し、より臨場感のある絵画の構造分析を行った。

### 4. 研究成果

(1) 本研究の重要作品として位置付けた、国宝「一遍聖絵」(神奈川・清浄光寺、東京国立博物館蔵)は、鎌倉時代後期の正安元年(1299)に成立した、12巻すべてを画絹に描くきわめて豪華な絵巻である。時宗の祖一遍の生涯と遊行をテーマにし、全国各地の聖地、名所を描く絵巻として広く知られてきた。

本研究では、「一遍聖絵」の場面や表現の分析、日本やアメリカ合衆国に存在する関連作品の調査、一遍が遊行した重要聖地の踏査を行うことにより、制作背景となる信仰と人的ネットワークの広がりを実感し、さまざまな知見を得ることができた。2015年度に重点的に調査研究を進めたところ、時宗の絵巻として研究されてきたこの絵巻の成立背景において、中世律宗が仏教諸宗派と貴賤の人々、作品の制作現場をつなぐ重要な役割を果たしていた可能性を引き出すことができた。この新知見は、2016年度以降の調査研究において、他の同時代作品研究に応用できることもわかり、今後もさまざまな新解釈への発展が期待できる。

2015年度の研究成果は、特集展示「一遍と歩く―一遍聖絵にみる聖地と信仰」(東京国立博物館本館2階特別1・2室、2015年11月3日~12月13日)の期間中に行った、一般向け普及事業や博物館ウェブサイト上で速報した。この展示は、当館が所蔵する国宝「一遍聖絵」巻第7と近世木挽町狩野家の絵師による模本を柱に、善光寺、熊野、石清水八幡宮などの関連する聖地、信仰の絵画、彫刻、考古遺物を展示するもの。会期中の講演会、ギャラリートークにはのべ500人の来場者があり、研究成果を広く伝えることができた。また、神奈川・遊行寺宝物館、神奈川県立歴史博物館、神奈川県立金沢文庫と連携したシンポジウム「一遍聖絵の全貌」を東京国立博物館平成館大講堂で開催。歴史、宗教史、建築史、美術史研究者らとともに研究報告を行った(「社寺参詣曼荼羅」としての聖絵)。研究代表者は、「一遍聖絵」で描き出される聖地の多くが中世律宗の拠点であり、一遍の活動範囲が叡尊、忍性ら律僧に近いことを示唆していること、すなわち念仏僧と律僧との緊密な関係が、このまれにみる優品の成立につながった可能性を発表した。このシンポジウムの各研究報告などをまとめた書籍は、2018年に刊行予定である。

この成果をうけた2016年度には、さらに関連する作品調査と現地踏査を進め、一遍のみならず、「一遍聖絵」の詞書をまとめた聖戒の活動と関連作品の成立背景にも、中世律宗各派が深く関与した可能性を美術史学会で発表(「一遍聖絵の成立と中世律宗」)。隣接分野にも影響する新知見を学界に提示することができた。さらに、東京国立博物館が所蔵する聖徳太子像とその厨子について、聖戒が四天王寺別当を務めた忍性とつながりによって発願した可能性があり、このネッ

トワークが「一遍聖絵」の成立背景と共通するとみる研究成果を、ハーバード大学における研究会で海外の研究者にも報告した(「叡尊教団、一遍、聖戒と聖徳太子像」)。

以上のように、本研究の主たる成果として挙げられるこの新知見は、他の同時代作品研究にも応用でき、引き続きさまざまな新解釈への発展が期待できると見込んでいる。

当初の研究計画では、従来の研究に基づき、鎌倉時代の社寺縁起絵や高僧伝絵を宗派や本尊によって分類し、継承や発展の構造を明らかにすることを目的としていた。しかし、「一遍聖絵」の研究から見えてきたように、鎌倉時代における社寺縁起絵、高僧伝絵制作の結節点のひとつに中世律宗を据えることで、従来課題となっていた宗派を超えた作品の共通性に対するひとつの視座が提示できたのは大きな成果であった。新しい枠組みを構築する試みは、引き続き「中世律宗絵画に関する基礎的研究」(2018~2020年度、基盤研究(C)、課題番号18K00178)として継続する。

(2) 2016~2017年度にかけて、(1)に並行して、社寺縁起絵、高僧伝絵制作が再興した近世前期の作品を主な対象とし、館藏品、寄託品の作品調査を行った。とくに、17世紀の寺社整備、創建に関する研究の端緒として文京区湯島の霊雲寺を取り上げ、五代將軍徳川綱吉、柳沢吉保の帰依を受けた真言僧浄嚴の絵画、書跡の調査を行い、その成果として特集「幕府祈願所 霊雲寺の名宝」(東京国立博物館本館2階特別2室、2017年4月25日~6月4日)を開催。リーフレット、ギャラリートークで来館者へ直接報告した。

また、北区飛鳥山博物館が近年所蔵した「若一王子縁起絵巻模本」について調査、研究を行った。この絵巻の原本は、三代將軍徳川家光の命により、林羅山が詞書を撰述、狩野尚信が絵を描いたことが知られる名品だが、遅くとも万延元年(1860)までには焼失したと考えられており、その良好な模本が東京国立博物館(狩野派か)、紙の博物館(板谷絵所)、そして飛鳥山博物館(住吉絵所)に保管されている。江戸時代に將軍が関与した縁起絵が御用絵師によって転写され、伝来した構造がよくわかった。この成果は、北区飛鳥山博物館企画展「徳川家光と若一王子縁起絵巻」(2018年3月18日~5月7日)展覧会図録に寄稿した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 瀬谷 愛、長野県信濃美術館開館50周年記念特別講座「もっと知りたい日本美術のこと」第4回「知ると楽しい仏画の世界」講演録、長野県信濃美術館紀要』第

11号、2017年、pp.32-38、査読無

[学会発表] (計4件)

- ① 瀬谷 愛、叡尊教団、一遍、聖戒と聖徳太子像、「ハーバード大学美術館所蔵聖徳太子二歳像および像内納入品」に関するワークショップ(名古屋大学・ハーバード大学共同研究)、ハーバード大学、ボストン、アメリカ合衆国、2017年3月25日
- ② 瀬谷 愛、鎌倉時代の周防国と松崎天神縁起絵巻、第9回松崎天神縁起絵巻研究会、防府天満宮、山口県、2017年2月18日
- ③ 瀬谷 愛、一遍聖絵の成立と中世律宗、美術史学会東支部例会、成城大学、東京都、2016年7月23日
- ④ 瀬谷 愛、「社寺参詣曼荼羅」としての聖絵、「国宝 一遍聖絵」展特別展開催記念シンポジウム「一遍聖絵の全貌」、東京国立博物館、東京都、2015年11月15日

[図書] (計4件)

- ① 瀬谷 愛 他、徳川家光と若一王子縁起絵巻展図録、北区飛鳥山博物館編、東京都北区教育委員会、2018年、107pp.
- ② 瀬谷 愛、幕府祈願所 霊雲寺の名宝、東京国立博物館、2017年、8pp.
- ③ 瀬谷 愛 他、生誕八〇〇年記念特別展 忍性菩薩一関東興律七五〇年一展図録、神奈川県立金沢文庫、2016年、96pp.
- ④ 瀬谷 愛 他、信仰と美術(日本美術全集第11巻)、小学館、2015年、303pp.
- ⑤ 瀬谷 愛 他、国宝一遍聖絵展図録、神奈川県立歴史博物館編、遊行寺宝物館、2015年、231pp.

[その他]

ホームページ等

- ① 特集展示、幕府祈願所 霊雲寺の名宝、東京国立博物館、東京国立博物館本館特別2室、2017年4月25日~6月4日  
[http://www.tnm.jp/modules/r\\_free\\_page/index.php?id=1863](http://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=1863)
- ② ギャラリートーク、幕府祈願所霊雲寺と開基浄嚴、東京国立博物館本館特別2室、2017年5月16日
- ③ 1089 ブログ、幕府祈願所 霊雲寺の名宝  
<http://www.tnm.jp/modules/rblog/index.php/1/2017/04/27/%E9%9C%8A%E9%9B%B2%E5%AF%BA%E3%81%AE%E5%90%8D%E5%A%E9D/>
- ④ 1089 ブログ、霊雲寺開基 浄嚴の思想  
<http://www.tnm.jp/modules/rblog/index.php/1/2017/05/25/%E9%9C%8A%E9%9B%B2%E5%AF%BA%E9%96%8B%E5%9F%BA%E6%B5%84%E5%8E%B3/>
- ⑤ 特集展示、一遍と歩く——一遍聖絵にみる聖地と信仰、東京国立博物館本館特別1室・2室、2015年11月3日~12月13日  
[http://www.tnm.jp/modules/r\\_free\\_pa](http://www.tnm.jp/modules/r_free_pa)

- ge/index.php?id=1761
- ⑥ 講演会、一遍とたどる日本の聖地と時宗の文化財、東京国立博物館平成館大講堂、2015年11月7日
  - ⑦ ギャラリートーク、一遍とみる聖地と信仰、東京国立博物館本館特別2室、2015年12月1日
  - ⑧ 1089 ブログ、一遍聖絵にみる聖地と信仰  
<http://www.tnm.jp/modules/rblog/index.php/1/2015/11/06/%E4%B8%80%E9%81%8D1/>
  - ⑨ 1089 ブログ、「一遍聖絵」にみる一遍と律宗の関係  
<http://www.tnm.jp/modules/rblog/index.php/1/2015/11/27/%E4%B8%80%E9%81%8D2/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

瀬谷 愛 (SEYA, Ai)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・主任研究員

研究者番号：50555133